

等質ベクトル束における 不変微分作用素の環の構造

日本女大 峰村 勝弘

この小文では, reductive 等質空間上の不変微分作用素の環について知られている性質 (Helgason [1] 参照) のいくつかを, reductive 等質空間上の等質ベクトル束の場合に拡張する. 関連する話題については [2] を参照せよ.

以下, G は連結リー群, K は一つの閉部分群とする. G, K のリー環を $\mathfrak{g}, \mathfrak{k}$ とし, G/K は reductive とする. すなわち $\mathfrak{g}$ の subspace $\mathfrak{p}$ で, $\mathfrak{g} = \mathfrak{k} \oplus \mathfrak{p}$, $\mathfrak{p}$ は $\text{Ad}(K)$ -不変であるが存在すると仮定する. (π, V) を, K の表現で, V は有限次元複素ベクトル空間とする. 以下では, π は $G, K, \mathfrak{g}, \mathfrak{k}, \mathfrak{p}, (\pi, V)$ は固定しておく. $S(\mathfrak{p}_\mathbb{C})$ は $\mathfrak{p}_\mathbb{C}$ 上の symmetric algebra と表わす. $\text{End}(V)$ を単に $E(V)$ と書く. $S(\mathfrak{p}_\mathbb{C})$ の $E(V)$ は K -module とし

2) tensor product を表わす。 $C^\infty(\mathfrak{g}, V)$, $\mathcal{D}(\mathfrak{g}, V)$ をそれぞれ $\mathfrak{g}$ 上 V -valued C^∞ -functions, $E(V)$ は微分作用素の全体. $k \in K$, $F \in C^\infty(\mathfrak{g}, V)$, $P \in \mathcal{D}(\mathfrak{g}, V)$ に対し

$$F^k(x) = \tau(k) F(\text{Ad}(k^{-1})x), \quad x \in \mathfrak{g}$$

$$P^k(F) = (P(F^k))^k, \quad F \in C^\infty(\mathfrak{g}, V)$$

とある τ は $C^\infty(\mathfrak{g}, V)$, $\mathcal{D}(\mathfrak{g}, V)$ は K -module となる。 $x \in \mathfrak{g}$ に対し $\partial(x) \in \mathcal{D}(\mathfrak{g}, V)$ を

$$F(y; \partial(x)) = \left\{ \frac{d}{dt} F(y+tx) \right\}_{t=0}, \quad y \in \mathfrak{g}$$

で定義すると, $\partial: x \mapsto \partial(x)$ は

$$F(y; \partial(I \otimes T)) = T F(y), \quad T \in E(V)$$

とあるように unique に, $S(\mathfrak{g}_c) \otimes E(V)$ から $\mathcal{D}(\mathfrak{g}, V)$ の $\mathfrak{g}$ 上の algebra-hom. に拡張できる。 $C^\infty(\mathfrak{g}, V)_x$ ($x \in \mathfrak{g}$) を x にある germ の全体を表わす。 $\rho \in S(\mathfrak{g}_c) \otimes E(V)$ と $x \in \mathfrak{g}$ に対し $\partial_x(\rho)$ を map

$$C^\infty(\mathfrak{g}, V)_x \ni F \mapsto F(x; \partial(\rho)) = \partial_x(\rho) F \in V$$

を表わす。

Lemma $\forall x \in \mathfrak{g}$ に対し $\partial_x: \rho \mapsto \partial_x(\rho)$ は $S(\mathfrak{g}_c) \otimes E(V)$ から $\text{Hom}(C^\infty(\mathfrak{g}, V)_x, V)$ への同型写像

5.2.3. 更に $\partial: p \mapsto \partial(p)$ は $S(p_c) \otimes E(V)$ かつ

$\mathcal{O}(p, V)$ の中への同型を与える. $\forall k \in K$ に対して

$$\partial(p)^k = \partial(p^k)$$

を満足する.

$E \in \mathcal{C} = \text{equivariant } \mathcal{C} = G/K$ 上の vector bundle とする. $C^\infty(E)$ を E 上の C^∞ -section 全体を表わし,

$$C^\infty(G, \mathcal{C}) = \{f: G \rightarrow V \mid C^\infty, f(gk) = \tau(k^{-1})f(g) \\ \forall k \in K, \forall g \in G\}$$

と定義し, left translation を $C^\infty(G, \mathcal{C})$ を G -module

とすると, $C^\infty(K) \subset C^\infty(G, \mathcal{C})$ は G -同型である.

$D_\tau(G/K)$ を E 上の G -invariant differential operators 全体の成す環を表わす. $u \in C^\infty(G, \mathcal{C})$, $g \in G$ に対して

$$u_g \in C^\infty(p, V) \text{ を } u_g(x) = u(g \exp x) \quad (x \in p) \text{ と定}$$

める. $S(p_c) \otimes E(V)$ の元を K -invariant 元全体の

$(S(p_c) \otimes E(V))^K$ と表わすことにし, $f \in (S(p_c) \otimes E(V))^K$ と

$u \in C^\infty(G, \mathcal{C})$ に対して f を

$$f(g) = u_g(0; \partial(p)) \quad (g \in G)$$

と定める. 容易に $f \in C^\infty(G, \mathcal{C})$ である. 逆に

$f = \sum(p) u$ とし, $\sum(p)$ を定めると, $\sum(p)$ は E 上の微

分作用素と存在。

Proposition $\mathcal{S}: p \mapsto \mathcal{S}(p)$ は $(S(p_c) \otimes B(V))^K$ から $D_\tau(G/K)$ の上への同型を与える。

$\mathcal{G}$ をそれぞれ $\mathcal{G}_c, \mathcal{G}_r$ の環。 $\mathcal{G}^K$ は $\mathcal{G}$ の K -invariants 全体とする。 $\tau: \mathcal{G}$ 上の $x^T = -x$ ($x \in \mathcal{G}$) とする anti-automorphism とする。 $d\tau$ を τ の微分表現とし、以下 $d\tau$ が既約と仮定する。 $\mathcal{J} = \ker(d\tau)$, $\mathcal{J}^T = \{z^T; z \in \mathcal{J}\}$ とおく。 $\text{Ad}(k)$ ($k \in K$) と τ は可換である。

$$\mathcal{S}(\mathcal{I} \otimes z) = \mathcal{I} \otimes (z + \mathcal{J}^T) \quad (z \in S(p_c), z \in \mathcal{R})$$

12.5) 定まる linear map $\mathcal{F}: S(p_c) \otimes \mathcal{R} \rightarrow S(p_c) \otimes \mathcal{R}/\mathcal{J}^T$ は K -homomorphism である。 $\mathcal{Z} = \mathcal{Z}^T$ $\mathcal{F}$ の $(S(p_c) \otimes \mathcal{R})^K$ への制限を $\mathcal{F}_K$ とおく。

$$\mathcal{Z} = \mathcal{Z}^T, \quad \mathcal{I} \in S(p_c), \quad z + \mathcal{J} \in \mathcal{R}/\mathcal{J}^T \quad \text{に對し, } \mathcal{Z}$$

$$\eta(\mathcal{I} \otimes (z + \mathcal{J}^T)) = \mathcal{I} \otimes d\tau(z^T)$$

とおく。 η は $S(p_c) \otimes \mathcal{R}/\mathcal{J}^T$ から $S(p_c) \otimes B(V)$ への K -isomorphism を与える。 $d\tau$ は既約と仮定する。 $\mathcal{Z}$ の $\mathcal{Z}^T$ の $(S(p_c) \otimes \mathcal{R}/\mathcal{J}^T)^K$ への制限 η_K は

40

が既知である。これを、次の条件が成り立つ
は μ は全射である。従って $G^k/G^k \cap gJ^T \cong D_k(G/k)$ である。
3.

- (i) J または J^T は, $k = K$ -invariant な複素空間である。
- (ii) K の k_c 上の Adjoint representation は semisimple
- (iii) $Ad(K)$ は compact.

[1] Helgason, S. ; Differential Geometry and
Symmetric Spaces, Academic Press, New York,
1962.

[2] Minemura, K. ; 等質ベクトル束上の不連続群作用系,
数理解析研究所講究録, 1981.